

# GIcompo導入パターン

---

## スタンドアロン型、C/S型、Web型の実績事例

GIcompoは様々な形態で利用していただけます。

本書では、実際にGIcompoを使って構築したシステムの実績を基に  
導入パターンをご紹介します。

ご不明点などございましたら、弊社営業までご連絡下さい。

### 目次 H13.6

#### . スタンドアロン型

##### . C/S型(1)

【属性データのサーバー管理】

##### . C/S型(2)

【属性と主題図データのサーバー管理】

【全てのデータのサーバー管理】

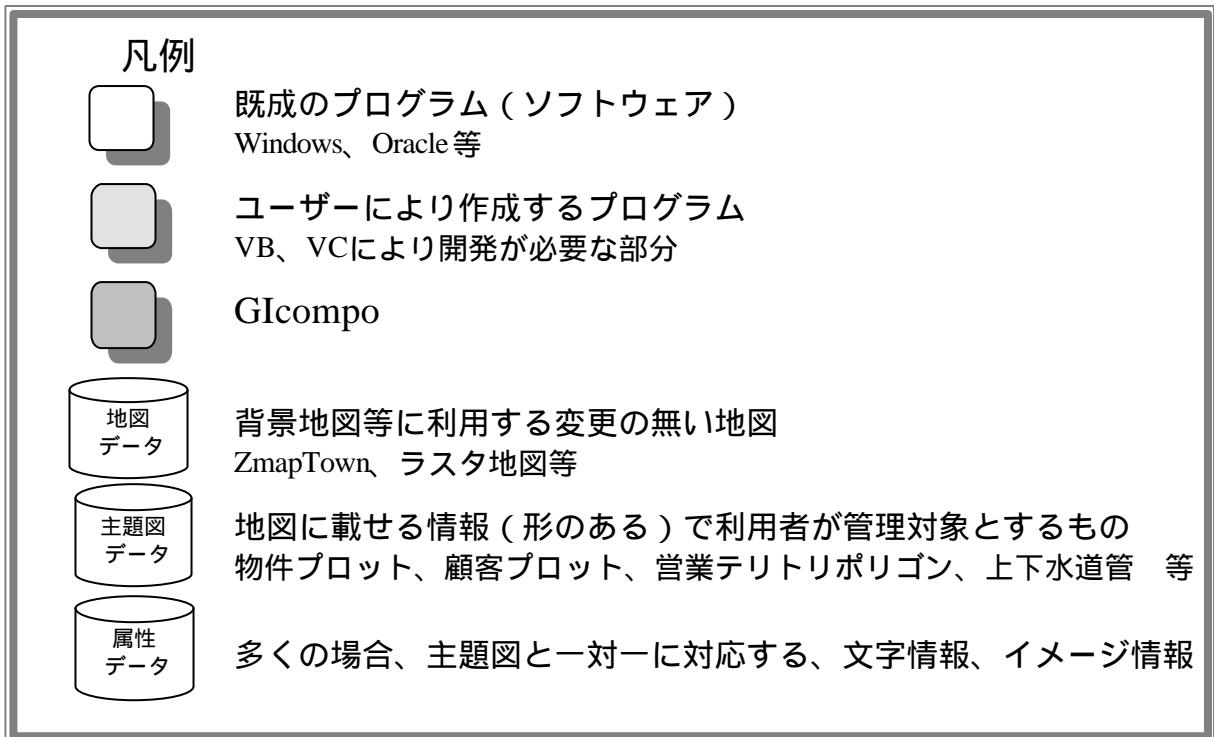
#### . ~ . Web型



COMMUNICATION PLANNING

株式会社コミュニケーション・プランニング

<http://www.cpnet.co.jp>



## ．スタンドアロン型

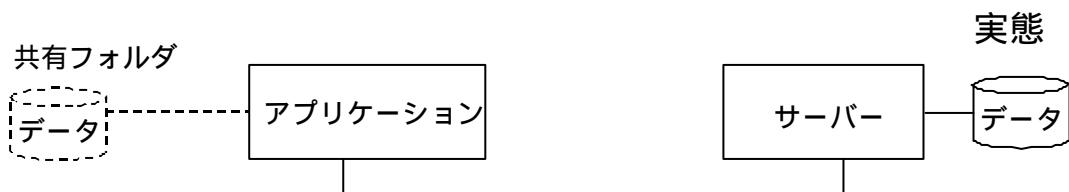
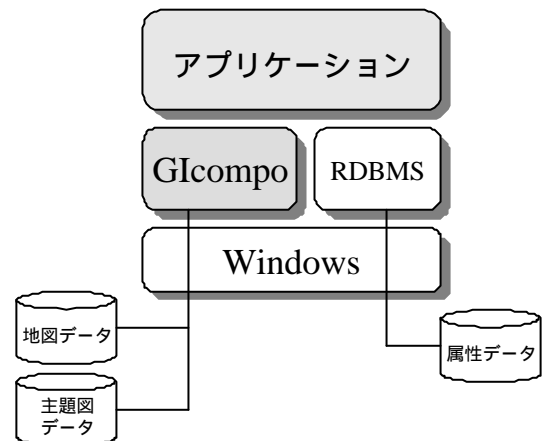
### 代表的システム

- ・各種シミュレーション
- ・上下水設計システム
- ・CATV設計システム etc

GIcompoの利用でいままで多く用いられていた形です。  
データ共有の必要がないシミュレーション，解析，分析，  
設計関連のシステムに用いられます。

最近の傾向として、主題図情報，地図情報を別のシステムで共有して使うニーズより、スタンドアロン型の要望は少なくなってきましたが、多くの場合地図は参照するだけで、主題図の登録・変更は限られたシステムに閉じています。

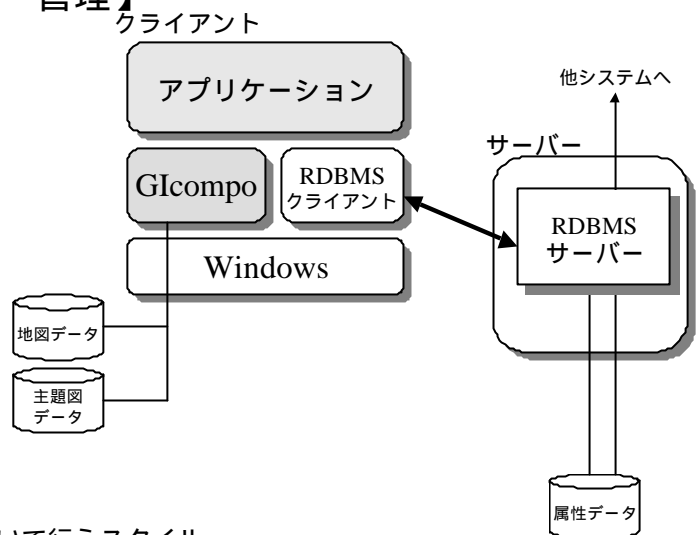
このような場合、下図のようにネットワークファイルシステムの機能を用いて、データの共有が可能となります。利用者によっては、このスタイルもC/S型と呼ぶ場合もありますが、システム的にはスタンドアロンと変わりありません。



## ・ C/S 型 (1) 【属性データのサーバー管理】

### 代表的システム

- ・ 施設管理系全般
- ・ 用地管理
- ・ 都市計画 etc



属性データの管理をデータベースソフトのC/S機能を用いて行うスタイル。

例えば、施設・用地情報の属性（文字情報）を他のシステムで扱える様C/S型で管理とし、地図と連動したシステムでその位置情報（主題図）属性情報の登録をおこないます。位置に関する情報はこのスタイルの場合システム内でしか扱えませんが、付帯する属性情報については別システムからも参照・更新できます。

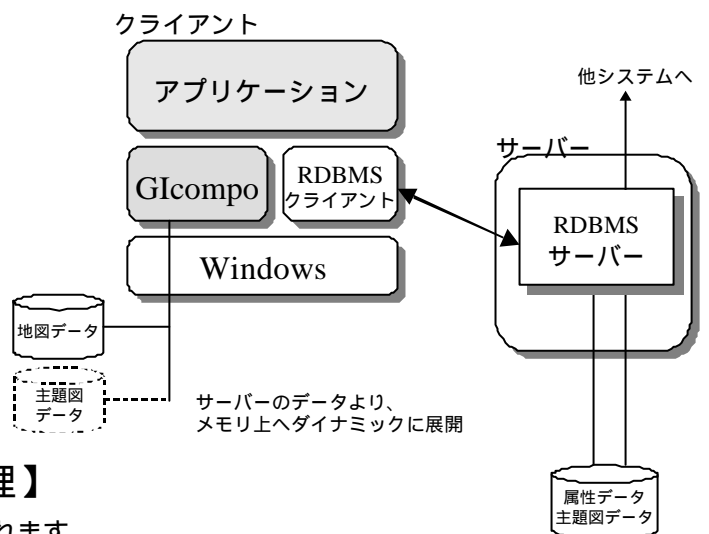
具体例でご説明しますと、図面の作成，施設の登録はこのシステムで行い、施設情報のメンテナンス管理は、その属性情報の内、メンテナンス記録のみを書き込んでいくという使い方です。

GIcompoを利用する場合は、属性データベースのクライアント側の処理をアプリケーションで構築する必要があります。

## ・ C/S 型 (2)

### 代表的システム

- ・ 顧客管理
- ・ 需要家管理
- ・ 物件管理 etc



### 【属性と主題図データのサーバー管理】

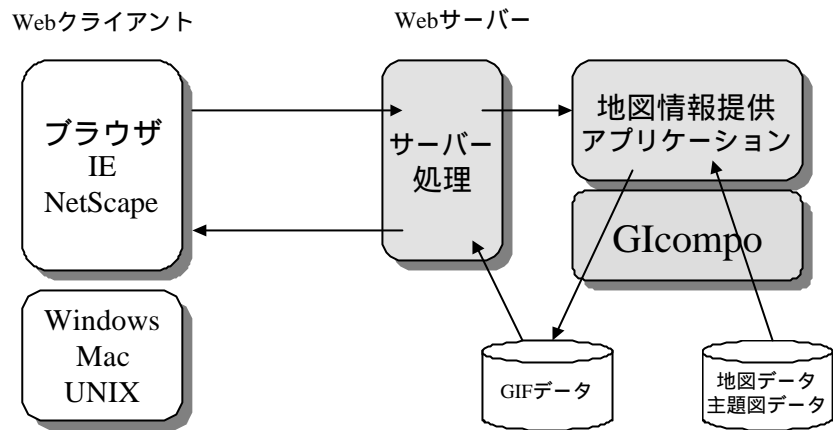
このスタイルが今後一般的なC/S型となると考えられます。

主題図の位置情報（形状に関する情報）をデータベースのサーバー上で管理し、排他制御を実現します。基本的に地図（背景図）は更新処理が必要ないため、排他制御は必要なく、ネットワークファイルシステムを利用して参照共有するか、高速処理を望む場合は各クライアントにインストールしても良いでしょう。

### 【全てのデータのサーバー管理】

GIcompo Ver2.50以降より、形状、レイヤー単位でのデータの出し入れがアプリケーションより可能となった為、GIcompo のデータをそのままデータベースのサーバーに格納し、排他制御等のデータベースの持つ機能を利用することができます。また、主題図の形状に関する情報（緯度経度、色、シンボル種別等）をテキスト形式で格納し、アプリケーションで必要時にダイナミックにDrawSymbolを行う仕組みは、以前のバージョンでも多く実現しています。

## . Web 型 (1)



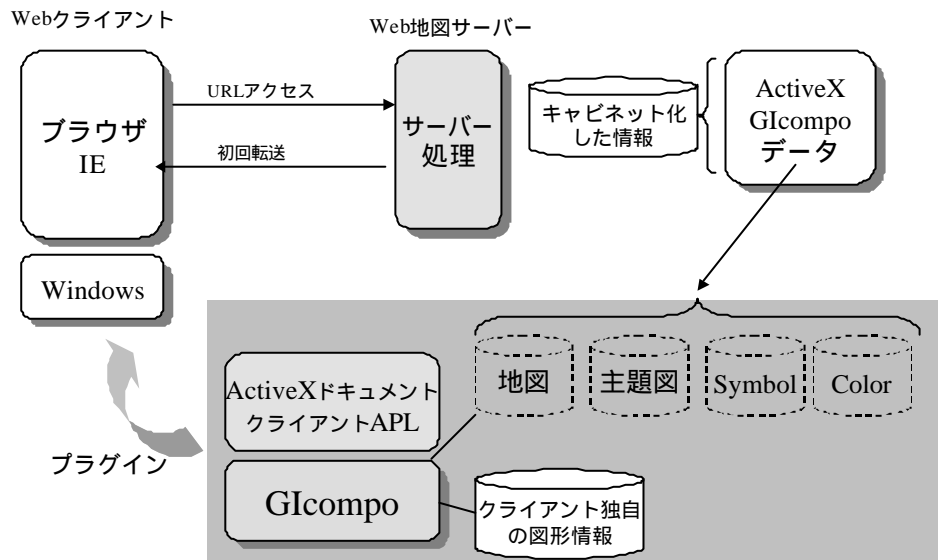
これはもっとも簡単な例です。

Webサーバーで、地図をラスターイメージにして配信し、クライアントはその地図を参照します。

Gcompo自体はWebサーバー側にひとつあればことが足ります。地図情報提供アプリケーションでは、Webサーバーから要求のあった地区の地図をGcompoを使って読み込み、Gcompoの読み込んだ情報をラスターデータ化してGIFファイル等のブラウザで表示できる画像を作成します。そして、WebサーバーがこのGIFファイルをクライアントに配信します。(また、アプリケーションのイメージをそのままブラウザに転送するソフトを使う方法もございます。) このパターンであれば、クライアント側にブラウザ以外のソフトをインストールする必要はありません。

\*地図等の情報については、著作権使用料が発生する可能性があります。

## . Web 型 (2)



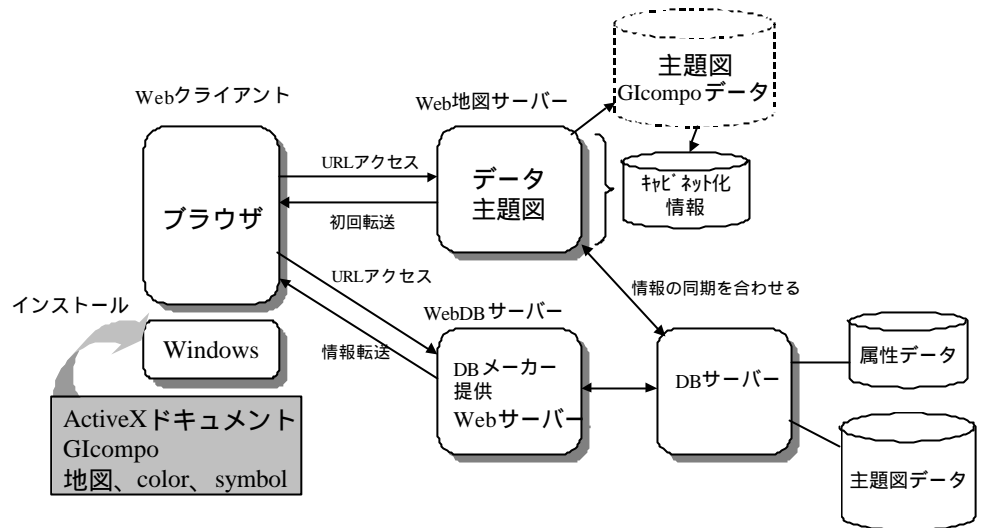
ActiveXドキュメントを作成し、クライアントに配信する参照系のパターンです。

この場合、Gcompoも配信するので、クライアントで独自のデータを書き込む事もできます。

Web型(1)と比べると、データの配信が済んでしまうと、クライアント内部で拡大縮小・スクロールを行うため、スタンドアロンと同様のレスポンスが得られます。また、背景図としての地図をクライアント側にインストールすれば、転送時間も大幅に短縮されます。

通常のGcompoを用いる場合は、ライセンス管理、プロテクタ管理の関係からイントラネット利用に限定する必要がありますが、インターネットでこのスタイルの利用を希望するお客様には、クライアントでデータ書きこみができないよう制限してある配布用Gcompoをご利用いただく事もできます。配布用であればサイト(Webサーバーサイト)での契約が可能です。

## Web型(3)

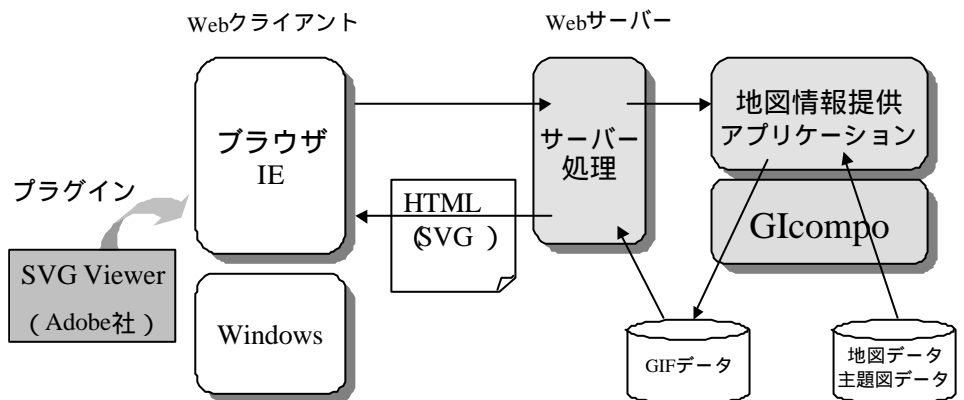


これは、Web(2)を拡張したレベルの事例です。

DBにはOracleを採用し、DBのWebサーバーには、Oracleアプリケーションサーバー(WAS)を使っています。ここで、Webサーバーが2系統たっているのは、WASの仕様で、ActiveXからWASへアクセスすることができなかった為ですが、Webの特性から考えてみても、別に何系統のサーバーにアクセスしても特に問題ではありません。何故ならば、Webサーバーは1回の要求でサービスを完結させるため、そのサービスに特化したサーバーを複数利用することは何ら不自然ではないからです。

また、属性の情報と主題図の情報(この場合は不動産物件)は、DBサーバー上で管理しています。これはC/S型(3)と同じです。ただし、属性及び主題図の更新はブラウザからは行わず、サーバー側に編集するシステムを用意します。このスタイルであれば、サーバー側主題図情報をクライアントで更新する仕組みはクライアント(ActiveX)の作りで容易に実現可能です。

## Web型(4)



XML応用技術SVGフォーマット\*を利用したパターンです。既に、スアンドアロンやC/Sで運用しているシステムから、WEBを介したユーザーへの地図情報配信に適しています。クライアントには、Adobe SVG Viewrをインストールする事で、高精度のグラフィックデータをブラウザで閲覧する事が可能です。この場合、ブラウザ上での地図操作機能はjavascriptで作成します。SVGは、クライアントの入力・選択等もサポートしていますので、そうした機能をもりこんだシステムの構築も可能です。

\*SVGフォーマット

広い分野に適用される為に、W3C(World Wide Web Consortium)自らが策定したベクトルデータ用のXML応用技術です。既にAdobe社を初めとするグラフィック系のソフトウェアメーカーが対応を表明しており、今後の利用の広がりが期待されています。